

# 深浦町における歴史文化資源調査と その活用による津軽地域振興事業

渡 辺 麻里子<sup>1</sup>

## はじめに

本事業は、2017年6月より実施している深浦円覚寺所蔵古典籍保存調査プロジェクトで、2019年度は、平成31年度（2019年度）公益財団法人青森学術文化振興財団の研究事業（チャレンジ枠）の助成を受けて実施したものである。ここにその活動を報告する。

## 1. 背景と目的

青森県は、人口減少や人口流出への対策が重要課題であるが、本事業が対象とする深浦町は、人口減少や高齢化比率が青森県内でも高い水準にあり、観光産業の低迷も著しく、地域の特色を活かした多様な取り組みや地域振興が重要かつ緊急の課題となっている。

こうした状況の中で、本事業は、弘前大学が、地域課題への対応や個性豊かな地域社会の形成と発展に資するため、平成28年に深浦町と連携協定を結び、弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの開講などを開始したことを契機とし、深浦町所在円覚寺所蔵資料の調査研究を行い、新たな津軽の歴史文化資源の発掘によって青森県を代表とする文化観光資源とすることを目指したものである。

また青森県では、新たな観光資源の開拓が必要であるが、青森にまだまだ埋もれている貴重な宗教文献資料を調査研究することにより、新たな文化資源を発掘し活用することも目標としている。

本事業で実施するのは、地域を代表する古刹である円覚寺資料の調査研究である。資料価値を高めることによって、青森県内に向けては、地域市民の郷土愛を深め、県外に対しては、国内でも貴重な歴史宗教資料の存在を発信し、「歴史文化都市」としての「青森」を全国にそして世界にアピールすることによって、青森県の文化振興に寄与し、持続可能な社会作りや地域振興の展開につなげるねらいがある。

## 2. 実施内容

上記の目標に照らして、今年度は以下のような活動を行った。以下、簡単に報告する。

### (1) 調査研究

2019年度は4月～12月までの期間に、9回の調査を実施した。調査の中で、市民と協働の調査を実施したり、市民向けの古典籍の取り扱い方講座を実施するなどした。また、弘前大学の大学生も参加し、文化財を調査する経験を積んだ。

今年度の深浦円覚寺の古典籍調査を通じ、都（京都・奈良）の大寺院旧蔵の聖教やその転写本の存在が

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部教授 地域未来創生センター副センター長

判明し、都との「知のネットワーク」が明らかになりつつある。また、修験道資料の中からは、津軽の様々な寺院との密接な関係や、僧侶間の師弟関係が明らかとなり、津軽における「知のネットワーク」の中核寺院になっている可能性が出て来た。これらの点については、今後、一層調査研究を進め、解明していきたい。また、益々円覚寺の古典籍の重要性が高まり、今後、文化財指定に向けて努力していくこととした。

#### (2) 醍醐寺調査団との合同調査の実施 (2019年10月10日～15日)

調査研究活動の一環として、円覚寺の本山である京都醍醐寺の聖教調査団が来訪、合同調査を行った。また醍醐寺聖教を撮影している業者によって、写真撮影も行った。今後、醍醐寺聖教との関係も調査研究が進むことが期待される。

#### (3) 弘前大学深浦エコサテライトキャンパス公開講座の実施 (2019年12月13日)

2019年12月13日13:30～15:15まで、深浦円覚寺において、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス特別公開講座(木造高校深浦校舎地域探求講座)を実施した。木造高校深浦校舎の一年生16名と先生方、深浦町民と合わせて、約35名が参加した。はじめに金比羅堂の中に机を並べ、渡辺が「深浦の歴史や文化を学ぼう」という題で講義、続いて、円覚寺責任役員海浦由羽子氏の案内で、本堂や宝物館、薬師堂厨子を見学した。再び金比羅堂に戻って着席、古典籍の扱い方を学んだ上で、円覚寺古典籍を実際に閲覧した。生徒たちにとっては、自分たちの手で和紙をめくりながら和本に実際に触る、初めての貴重な体験であった。



#### (4) 2019年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会(フォーラム)の開催

(2019年7月13日)

2019年7月13日(土)、13時～16:30、弘前大学コラボ弘大8階八甲田ホールにおいて、2019年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会を開催した。本フォーラムは、弘前大学エコサテライトキャンパス令和元年度特別公開講座でもあり、弘前大学人文社会科学部と名古屋大学人文学研究科が2019年3月に学術協定を締結した記念事業でもある。深浦円覚寺調査の成果報告であると同時に、弘前大学の寺院や歴史について、新たな視点で学ぶ機会とした。

深浦町長、円覚寺副住職、弘前大学人文社会科学部部長の挨拶の後、真言宗津軽仏教会による御法楽、弘前大学教職大学院教授瀧本壽史氏による「近世津軽と深浦」の講演、渡辺による「深浦円覚寺所蔵古典籍の意義—津軽の寺院における「知のネットワーク」—」の講演に続き、特別講演として、名古屋大学高等研究院教授阿部泰郎先生による「地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像—聖教調査とアーカイブス化の意義とは何か—」のお話があり、弘前大学理事(社会連携担当)の閉会の辞で終了した。また当日は会場にて、円覚寺資料の特別展示も行われた。

100名の会場に、160名以上の方が参集し、盛会となった。来場者からは、円覚寺は知っていてもこのような古典籍があることを初めて知ったと、驚きの声があがっていた。



### (5) 報告書の刊行準備

2019年3月に、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第一集を刊行し、調査の成果を報告したが、今年も引き続き、2020年2月に第二集を刊行するための準備を進めている。刊行後は広く頒布し、また今年度はリポジトリにも載せる予定で、成果をより広く公開していきたいと考えている。

## 3. 事業の成果

上記の事業の実施によって、様々な効果が生まれている。一つは、調査の成果が挙がることによって、青森県内外からの関心が高まっている。今年度は、円覚寺の本山である醍醐寺より調査団が来て合同調査を実施した。またこの合同調査や成果報告のフォーラムは、マスコミ各社に取り上げられ、新聞の他、テレビでも取り上げられるなど、青森県内でも注目された。関心が高まることによって、地域の文化財として活用する道も開けてくるように思う。

また教育面でも大きな成果があった。調査には、市民が参加し、合同調査としての形が作られつつある。こうした市民協働の調査は、文献資料調査においては全国に例が少なく、「青森モデル」として広く発信していきたい。

また12月の弘前大学深浦エコサテライトキャンパスでは、高校生が特別講義を受け、地域の文化財を通した「教科書には載らない学び」を体験し、自分たちの町にある文化財についての理解を深めることとなった。また調査に参加している大学生にとっても、研究を知る良い機会となっている。地域課題型学習は、今、大学に強く求められているが、それを実践できる場となっている。こうした次世代の育成に大きく貢献している。

## 4. おわりに

深浦円覚寺古典籍調査は、市民との協働、高校生との協働、そして所蔵者の協力、町役場と弘前大学との連携など、協調体制が次第に整ってきている。地域の文化財を通じて、研究機関（大学）を核として、地域の組織、市民（シニアから次世代を担う学生まで）とが連携していく形は、全国で模索されているが、「青森モデル」として、青森から日本全国に発信していきたい。

今後は、「青森モデル」の形成に努めつつ、調査研究を進め、文化財登録も目指していきたい。そして文化財を市民の手で保存調査していけることを目指していければと考えている。

### (参考文献)

『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第一集 2019年3月 弘前大学深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト(1-247頁)。

### 深浦・円覚寺 書物に修験道、真言密教の記述

深浦町の真言宗・円覚寺が所蔵している江戸時代の書物の一部に、弘前市の真言院や大鰐町の大円寺などから伝えられた修験道や真言密教に関する記述が含まれており、江戸時代の津軽の寺刹の知的文庫を明らかにする貴重な史料であることが、弘前大学人文社会科学研究科の深浦



深浦真智子教授

智子教授のグループによる調査研究で分かった。鎌倉・室町時代の古写本なども発見されており、約1200年前に聖徳太子が日本に仏教を伝えたことと、同教授は述べている。（菊谷賢）

### 弘大教授調査 弘前や大鰐から伝わる



大鰐町の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）

津軽の知的交流を示す。弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）

## 津軽の知的交流を示す

弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

## 知のネットワーク存在

深浦・円覚寺所蔵 古典籍の調査報告

弘前大学人文社会科学研究科の深浦真智子教授が、深浦町の真言宗・円覚寺に所蔵している江戸時代の書物の調査報告を発表した。調査によると、弘前市の真言院や大鰐町の大円寺などから伝えられた修験道や真言密教に関する記述が含まれており、江戸時代の津軽の寺刹の知的文庫を明らかにする貴重な史料であることが、弘前大学人文社会科学研究科の深浦真智子教授のグループによる調査研究で分かった。



円覚寺の古典籍を通じ、津軽の知のネットワークを考えたフォーラム

この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

Ⅲ\_2

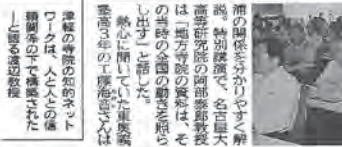
深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽地域振興事業

## 津軽の寺院に知識集結 江戸時代 僧侶ネットワーク



渡辺教授が弘前で報告。弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）

古文書から読み解く。弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）



津軽の寺院の知的ネットワークは、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（左）と、弘前市の真言院に伝わった「三経抄」の写本（右）

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

## 古典籍 解明さらに 弘大と京都・醍醐寺が合同調査



深浦町の真言宗・円覚寺が所蔵している江戸時代の書物の調査報告を発表した。調査によると、弘前市の真言院や大鰐町の大円寺などから伝えられた修験道や真言密教に関する記述が含まれており、江戸時代の津軽の寺刹の知的文庫を明らかにする貴重な史料であることが、弘前大学人文社会科学研究科の深浦真智子教授のグループによる調査研究で分かった。

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

津軽における  
**寺院資料の世界**  
 — 深浦円覚寺の古典籍を基点として —

2019年度 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会  
 弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 令和元年度特別公開講座  
 弘前大学人文社会科学部・名古屋大学人文科学研究科 学術協定締結記念



深浦町深浦円覚寺所蔵『新心法華經卷四(七)』

2019年7月13日(土)

13時～16時30分 (開場12時30分) 入場無料 事前申込不要

弘前大学コラボ弘大8階 八甲田ホール (定員100名)  
 (青森県弘前市文京町3番地)  
駐車場が狭いため、公共交通機関を利用してお越しください。

**特別講演**  
**地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像**  
 — 聖教調査とアーカイブス化の意義とは何か —  
 名古屋大学 高等研究院 教授 **阿部 泰郎** 先生



弘前の寺院と歴史について、新たな視点で学んでみませんか？ 深浦円覚寺の古典籍調査の結果、津軽の寺院に関する新発見がありました。このフォーラムでは、中世・近世における津軽と深浦の関係を、絵図や古文書、深浦円覚寺所蔵古典籍から考えます。また名古屋大学の阿部泰郎先生に、地方における寺院資料の意義についてご講演いただきます。津軽の歴史や寺院について、深く学んでみましょう。

主催：深浦町 弘前大学 深浦町教育委員会  
 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター  
 後援：弘前市 東奥日報社 陸奥新報社

公益財団法人青森学術文化振興財団の助成を受けています。

**問い合わせ**  
 弘前大学人文社会科学部総務G 担当:福士  
 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
 電話：0172-39-3192  
 メール：jm3192@hirosaki-u.ac.jp

## プログラム

- 13:00 開会の辞 深浦町長 吉田 満
- 13:05 ご挨拶 円覚寺副住職 海浦 誠観
- 13:10 ご挨拶 弘前大学 人文社会科学部長 今井 正浩
- 13:20~13:30 真言宗津軽仏教会による御法楽(実演)
- 13:30~14:20 講演1 近世津軽と深浦  
弘前大学 教職大学院 教授 瀧本 壽史  
(休憩10分)
- 14:30~15:20 講演2 深浦円覚寺所蔵古典籍の意義  
— 津軽の寺院における「知のネットワーク」—  
弘前大学 人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子  
(休憩10分)
- 15:30~16:30 【特別講演】  
地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像  
— 聖教調査とアーカイブス化の意義とは何か —  
名古屋大学 高等研究院 教授 阿部 泰郎 先生
- 16:30 閉会の辞 弘前大学 理事(社会連携担当) 石川 隆洋  
弘前大学 深浦エコサテライトキャンパス 所長

## 講師紹介



### 特別講演 地方寺院資料が照らし出す中世宗教の世界像 — 聖教調査とアーカイブス化の意義とは何か —

あべ やすろう  
阿部 泰郎 先生 名古屋大学 高等研究院 教授  
龍谷大学 特任教授

名古屋大学高等研究院教授。神奈川県横浜市出身。大谷大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は、日本中世文学を中心とし、説話文学、仏教文学、芸能史、民俗宗教学、寺院資料と幅広い。1984年に第11回日本古典文学会賞受賞。著書は、『湯屋の皇后 中世の性と聖なるもの』(名古屋大学出版会、1998年)、『中世日本の宗教テキスト体系』(同、2013)、『中世日本の世界像』(同、2018年)など多数。寺院資料の調査研究によって中世の文学世界を切り拓き、中世文学研究を領導されてきました。名古屋大須観音真福寺の調査による『真福寺善本叢刊』(臨川書店)や、仁和寺の聖教調査による『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究』(勉誠社、1998年)は大変著名です。本講演では、地方における寺院資料の意義について、アーカイブス化などの視点も交えて、幅広い観点から解説していただきます。



### 講演1 近世津軽と深浦

弘前大学 教職大学院 教授  
たきもと ひさふみ  
瀧本 壽史

弘前大学教職大学院教授。平川市(旧平賀町)出身。早稲田大学大学院文学研究科修了。文学修士。専門は日本近世史。特に北奥地域における藩政史を中心に、津軽・下北地域をフィールドとした研究を行う。高校教諭、青森県立郷土館、青森県史編さん室などを経て現職。前任は弘前高校校長。新編弘前市史、浪岡町史、青森県史など自治体史の編集・執筆を行う。論文に「寛政改革と藩土土着政策」(『津軽藩の基礎的研究』国書刊行会)、「海峡を越える地域間交流」(『列島史の南と北』吉川弘文館)など多数。本講演では、絵図や古文書をひもときながら、近世津軽と深浦の関係をわかりやすく解説します。

## 開催趣旨

弘前の寺院や歴史を、新たな視点から学んでみませんか？  
近世の津軽と深浦との関係を絵図や古文書からひもときます。また深浦円覚寺古典籍調査で発見された資料から、津軽の寺院と歴史や、津軽の「知のネットワーク」を考えます。さらに名古屋大学の阿部泰郎先生に、地方における寺院資料の意義についてご講演いただきます。弘前・津軽の寺院や歴史に関する、近年の調査研究による新情報を満載したフォーラムです。

## 真言宗津軽仏教会による御法楽(実演)



真言宗における御法楽を、実演していただきます。  
法螺貝や太鼓による演奏や、経典を美しく唱える声明を、実際に  
見えて、聴いてみましょう。

(写真は「テラハク」での実演。今回はミニライブとなります。)

## ミニ資料展観

深浦円覚寺所蔵の貴重資料を会場で展観します。鎌倉期写本や修験資料を、この機会に是非直接、御覧下さい。



### 講演2 深浦円覚寺所蔵古典籍の意義 — 津軽の寺院における「知のネットワーク」—

弘前大学 人文社会科学部 教授  
わたなべ まりこ  
渡辺 麻里子

弘前大学人文社会科学部教授。千葉県出身。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。専門は日本中世文学。仏教文学や寺院資料調査を主とする。主な業績に、「天台仏教と古典文学」(『天台学探尋』法蔵館、2014年)、「天台談義所をめぐる学問の交流」(『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年)などがある。近年は、津軽地域の文献資料調査を行い、深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトや弘前藩藩校「稽古館」資料調査プロジェクトなどを推進する。本講演では、深浦円覚寺古典籍調査の最新の成果を紹介しつつ、津軽の寺院や歴史、津軽の知のネットワークを解き明かします。